

人文科学総合Ⅱ（Human Science Ⅱ）		5 年・後期・2 学修単位（α）・必修 電子制御工学科・担当 桑原 英之	
〔準学士課程（本科 1－5 年） 学習教育目標〕 （1）	〔システム創生工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A－2（80%）、A－1（20%）		〔JABEE 基準〕  （b）、（a）
〔講義の目的〕 人文学的知とは生きるために役立つ直接的知識ではなく、この世界を自分が生きるに値する世界として価値や意味を与えるための知である。その自分が生きる世界や社会のもつ意味を多角的な視点で解釈し意味づける力を養うことを目的とする。			
〔講義の概要〕 どのような社会問題や事象も、その根本にはそれが成立するための根源的事象がある。たとえば生命、言語、人間、正義といったものである。それら私たちの経験を形作る根本的な事象について、現代社会の倫理的な問題と関連づけながら、根本に立ち返って考えていく。			
〔履修上の留意点〕 配付資料などは各自ファイルすること。ノートをとること。			
〔到達目標〕 ①様々な社会的問題を多角的な視点で分析し理解する力を養う。 ②生命、言語といった基礎的現象に対する自分なりの意味や解釈を持つ。			
〔自己学習〕 今社会で起きている問題に対してアンテナをはり自分がこれまで生きてきた中での経験と結びつけながら、自分ならこ考えるという自分なりの考えをもつことを習慣づけること。			
〔評価方法〕 最終レポート 60%、講義内小テスト又は小レポート 40%			
〔教材・参考書〕 主としてプリント教材。参考図書については、講義中に随時紹介する。			
〔関連科目〕 人文科学総合Ⅰで扱った内容と関連づけて進めていく。 また地理、歴史、政治経済等の基本的な知識とも重なる部分が多い。			

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	イントロダクション	この講義の概要及び人文科学の持つ意義について考察する	
第2週	人間とは何か	人間とは何か。「人」と「人外のもの」との区別をフィクションがどう描いてきたのかを検討しながら考察する。	
第3週	生命とは何か	生命とは何か。生命と生命外のものとの区別をフィクションがどう描いてきたのかを検討しながらみながら考察する。	
第4週	生命思想史	人は生命についてどのように考えてきたのか、古代から現代に至る様々な宗教、思想、哲学を概観する。	
第5週	現代社会と死 1	誰もが避けて通ることのできない安楽死や尊厳死といった事を通して生きることと死ぬことについて考察する。	
第6週	現代社会と死 2	誰もが避けて通ることのできない安楽死や尊厳死といった事を通して生きることと死ぬことについて考察する (続)。	
第7週	現代社会と生命 1	人の出生の場面、特に不妊治療が照らし出す現代社会における命の意味について考える。	
第8週	現代社会と生命 2	人の出生の場面、特に出生前診断や中絶に焦点を当て、現代社会における命の意味について考える (続)。	
第9週	障がいと優生思想	優生思想とは何か、それが障がいを抱えて生きてきた人々にどんな影響を与えてきたのか考察する。	
第10週	動物と倫理	デカルトの動物機械論、ピーターシンガーの動物解放論といった議論を通して人と動物の関わりについて考える。	
第11週	死者について	なぜ私たちは死者を丁重に扱い悼むのか。弔うことの社会的意義を検討しながら死者という存在について考える。	
第12週	環境問題とグローバリズム	地球温暖化などの環境問題とグローバリズムがどう関係しているのか考察する	
第13週	グローバル社会と倫理	我々には遠くの他者に手をさしのべる義務があるか否か、ピーターシンガーの「寄付」に関する論考を通して考える。	
第14週	言語と世界	言語や記号が世界との関わりにおいていかに「意味」をつくるのか、ソシュールやパースといった思想家を通じて考察する	
第15週	人間の未来	生命、死、言語といったこれまでの考察を振り返り、人間の未来について考察する	

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)